



大妻多摩中学校

二〇一九(平成31)年度

入学試験問題(午後)

【国語】

時間 50分

2月1日(金)

【注意事項】

- 1 問題は14ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。
- 5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

ダイナマイトをはじめ、化学薬品（殺虫剤など）、原子力、自動車、コンピュータなどなど、^①こうした技術と人間社会との関係を考えてみてください。

②、原子力エネルギーは、純粋な科学的好奇心から発見されました（キュリー夫人の名前は聞いたことがあるでしょう）。それは、その後、核兵器の開発、原子力発電、医学の治療などなど、技術への応用が行われました。より精巧な核兵器の開発も行われてきました。これは、社会の要求によるのでしょうか。それとも、より高度なものをめざすという人間が生来もっている本性にはたらきかけ、自ら発展していく技術の性格によるのでしょうか。それとも、兵器産業も、成長する経済に欠くことのできない一部とということでしょうか。どう考えますか？

最近のコンピュータの発達についても、同じようなことが観察できます。急激な情報化とコンピュータの発達は、社会全体を大きく変えつつあります。

③、社会は大きな恩恵を受け、生活においても便利と感ずることが少なくありません。しかし、人手を省き、仕事を楽にするために開発されたはずの情報機器によって、以前よりも、いそがしくなったと感ずている人も少なくないのではないのでしょうか。実は、著者自身もその一人です。

望むと望まないにかかわらず、社会全体がコンピュータ技術の発展のスピードに歩調を合わせるものが求められます。人びとは最新の情報に接していないと不安になり、次から次に、ほしいものがつくりだされ、それを手に入れる競争が起きます。それをチャンスとばかり、産業は必然のように開発競争にしのぎをけずります。

こうしたことが絶え間なく続き、情報産業は人間社会と切っても切れない関係になってゆきます。技術と人間社会には、^④なり^⑤なりこうした関係があります。

ですから、環境問題と技術の関係についても、私たちは冷静に考えてみる必要があると思います。技術の進歩は、環境問題を引き

起こすことはないか、適切な解決手段を生みだすことができるのかという問題です。

もちろん、両方とも正しいのですが、環境問題（とくに先進国において）が、急激な経済発展によって起きた一つの文明病であることは否定できません。

技術の進歩が、高い経済成長をうながし、私たちに物質的な豊かさを与えると同時に、さまざまな公害を発生させ、地球の温暖化を引き起こしつつあります。

そしていま、この問題を解決する手段として、新たな対策技術の開発が、社会的に要求されています。技術は、期待にこたえられるのでしょうか。^⑥ 技術への過大な期待は、新たな問題を発生させることはないのでしょうか。

たとえば、食料の生産を大きく増やした化学農薬の開発は、現在では、より強力な農薬の開発と、それでも死なない虫や菌の発生という、果てしないイタチごっこのようなことになりつつあります。

これは、科学技術が万能でないこと、そうした生物でさえ、人間が開発する技術よりはるかに複雑な仕組みをもっていることを、私たちに教えています。このイタチごっこにおいて開発された強力な化学農薬によって、多くの人間に対する健康被害も引き起こされてきました。一つの問題解決は、新たな、しかもより深刻な問題の原因を同時に生みだしてきたのです。

アメリカの海洋生物学者で作家のレイチェル・カーソン（一九〇七～六四）の『沈黙の春』（一九六一年）は、その恐ろしさを世界中中に警告した名著です。おそらく、かぎられた土地から大量の農産物を生産する現代の農業に農薬はなくてはならないものであり、開発にたずさわってきた研究者の努力には大きなものがあるでしょう。

たぶん、新しい農薬の開発は今後も続けられるでしょうが、この例は、こうした科学技術で、すべて解決しようとするこの問題を指摘した一例とみてよいでしょう。

多くの化学物質の開発は、人間の期待にこたえ、要求を満たすことに成功してきました。しかし、新たな環境汚染の大きな原因となっているものも少なくないのです。

^⑦ 温暖化問題への対応においても、今後、技術開発の意義と役割が増すことは確実と思われる。しかし、産業革命から始まった

技術の飛躍的な発展が、今日の大量生産、大量消費をもたらした原動力となったことも事実です。そして、それにともなう急激なエネルギー資源の消費増大こそ、温暖化問題の第一の原因なのです。

⑧ 技術の進歩は、私たちの生活を向上させましたが、深刻な環境問題のかくれた主役でもあるのです。もちろん、私は、技術の進歩が悪であるとは思いませんし、大きな期待も抱いています。

しかし、経済の発展をうながし、その手段となっている技術開発のもうひとつなスピードには、多少の疑問ももっています。

一九七〇年代半ばから後半にかけて石油の輸入がスムーズにいかないという危機があり、その対策として、省エネルギー技術の開発と普及が、国をあげて推進されました。

こうした努力は成功し、日本はいち早く、この状態をぬけました。一時的な危機への対応として、技術開発は確かに役だったのです。ところが、それ以後、省エネルギーのための技術は、エネルギー消費量を低下させることにはなりませんでした。

それは、日本経済の効率をよくし、さらに発展をうながしました。人びとは豊かになるにつれて危機を忘れ、エネルギーの消費量がふたたび増えたのです。

このように、省エネルギー技術の普及は、エネルギーの消費を増大させるという逆の効果をもたらします。自動車や家電製品を例にとると、それらが省エネルギー型になっても、走行距離の増大や製品の大型化などによって、消費されるエネルギーはかえって増えてしまうという傾向が見られました。

⑨、省エネルギー技術は、一時的に効果はあっても、エネルギーをむだづかいする傾向に歯止めをかけないばかりか、助長する側面さえもっているのです。

温暖化の対策を考えるうえでも、この因果関係は重要なものです。

温暖化問題は、一時的なものでも、自然災害でもありません。きわめて長期的な問題で、人間が自ら起こした問題です。すべての限界がある地球環境の中で、永遠にその場しのぎを続けることはできません。

少し大きな言い方になりますが、技術的な対策にたよって浪費社会を続けることは、「自動車のアクセルを強く踏み続けながら、

高性能のブレーキを取り付け、必死になって踏み込んでいるドライバー」あるいは「ほうじよく飽食に明け暮れながら、高価なダイエット器具に望みをたくす肥満人」という、^⑩こっけいな姿にたとえることもできます。

ブレーキやダイエット器具には限界があります。アクセルをゆるめたり、適度な食事量におさえることの重要性を忘れてはならないでしょう。というより、むしろこちらが主役ではないでしょうか。

私たちの生活の改善や向上において、科学技術が果たす役割は決して軽視されるべきではありませんが、これからも、今までどおりのやり方で進めてよいのか、薬をのむような技術の開発は無限に可能なのか、よく考えねばならない問題であると思います。

(後藤則行『中・高校生のためのやさしい地球温暖化入門』〔あすなろ書房〕)

問1(1) — 線部①「こうした技術と人間社会との関係を考えてみてください」とありますが、「技術と人間社会との関係」とはど

のようなのですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 技術は常に人間の欲望をかなえるために発展するが、その発展が人間社会をよりよい方向に導くか悪い方向に導くかは、技術をどう取り扱うかという人間の良心にのみかかっているということ。

イ 技術は人間の生活をより良くするために発展するが、その発展は日本人だけではなく全世界の望みであるため、人間と技術との関係は常に良好であるということ。

ウ 技術は人間が望むと望まないにかかわらず発展していく宿命にあるが、その発展に人間は常に惑わされてしまうため、技術と人間社会とは一定の距離を持っているということ。

エ 技術は人間の純粹な好奇心から発展するが、その発展が人間の欲望を刺激し、さらに技術開発が進むというサイクルが生まれるため、技術と人間社会との関係は密接であるということ。

(2) (1)のように「技術と人間社会との関係」を考えることを筆者が主張するのはなぜですか。その理由として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 技術と人間社会との関係を見直すことで、技術をより発展させることができるから。

イ 技術と人間社会との関係を見直すことで、人間はより良い人になることができるから。

ウ 技術と人間社会との関係を見直すことが、環境問題を考える上で重要だから。

エ 技術と人間社会との関係を見直すことが、人間の本性を考える上で重要だから。

問2

④

⑤

には反対の意味を持つ言葉が入り、慣用句を作っています。

④

⑤

に入れる言葉をそれぞれ

漢字一字で答えなさい。

問3 — 部⑥「技術への過大な期待は、新たな問題を発生させることはないのでしょうか」とありますが、この問いかけに対する答えはどのように述べられていますか。化学農薬の開発の例から具体的に四十字以内で答えなさい。

問4 — 線部⑦「温暖化問題への対応においても、今後、技術開発の意義と役割が増すことは確実と思われる」とありますが、「技術開発の意義と役割」とはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 人間が望む苦痛のない豊かな社会を生み出すこと。
- イ 現在進行しつつある温暖化を止めること。
- ウ より良い社会にするために人間の欲望を利用すること。
- エ 平和な社会を生み出すとともに温暖化を止めること。

問5 — 線部⑧「技術の進歩は、私たちの生活を向上させましたが、深刻な環境問題のかくれた主役でもあるのです」とありますが、それはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 技術の進歩は温暖化を抑えることに役立つていないばかりか、実は環境破壊の主な原因になっていること。
- イ 技術の進歩は温暖化を抑えることに役立つているばかりか、環境破壊をふせぐ働きも持っているということ。
- ウ 技術の進歩は環境破壊の主な原因になっているだけではなく、地球をより温める原因にもなっているということ。
- エ 技術の進歩は温暖化も環境破壊も関係なく、私たち人間の生活をよりよくするための主役であるということ。

問6 ———線部⑩「こっけいな姿にたとえることもできません」とありますが、本文中の具体例はなぜこっけいなのですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 技術開発で環境にとって不都合な状況を改善したとしても、人間にとって不都合な状況は永遠になくならないから。
- イ 現在の環境汚染を改善しても、人間の欲望をかなえるための技術によって別の環境汚染が起きてしまう可能性があるから。
- ウ 自らの欲望を技術開発によって満たす一方で、その結果生じた不都合な状況を新たな技術でおさえ込もうとしているから。
- エ 人間社会において、技術は人間の欲望をどんどんかなえていったため、人間は技術を魔法だと思ってしまうているから。

問7 ②・③・⑨に入れるのに最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

- ア しかし
- イ たとえば
- ウ いかえると
- エ 確かに

問8 私たち人間は環境問題に対してどのような対応をするべきだとあなたは考えますか。筆者の主張を踏まえて具体的に百字以内で答えなさい。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の表記は原文のままにしております。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

古い友だちの洋画家が、雪景せつけいの絵を二枚持って来てくれて、その絵を見ながら座敷ざしきで話していた。不意に友人が立って、廊下のはしから庭を見ながら、

「かささぎが来ているね。」

「かささぎが。」私は同じ問いをくりかえした。「あの鳥、かささぎか。」

「かささぎだ。」

「へええ。鎌倉にかささぎがいるのかね。」と私は信じかねて言った。友だちは風景画家で、よく山野さんやに写生の旅をして、鳥についてもくわしいから、たしかにかささぎなのだろうか。

①

「庭に来ている鳥がかささぎとは私は、思いがけなかった。」

ただの思いがけなさではなかった。かささぎと聞いたとたんに、日本の古歌に多く歌いこまれている「かささぎ」を思い出したからである。「②かささぎの渡せる橋」もある。七夕の夜、天の河で会う彦星ひこぼしと織女星たなばたのために、かささぎたちがつばさを連ねて橋をつくる。

そのかささぎが、毎日のように、庭へ来ているのであった。——かささぎと友だちに聞いた日は、新暦の七夕から五六日後であった。

もし友だちがまちがえていて、それがかささぎでなくても、私は客のあるたびに、「庭にかささぎが来ますよ。」とその鳥を見せるかもしれない。

③

友だちが「かささぎだ。」と言って、廊下で見ていた時、私は座敷のなかに坐すわったまま、

④

「六七羽から——そうだな、十羽ほど、よく庭へ来ているんだ。」と言ったが、立たって行って友だちといっしょに見ようとはしなかった。もう見なれて、目になじみの鳥だからだ。廊下へ出て鳥を見るよりも、その鳥の名を私は思っていた。「かささぎ」とい

う名を聞くと、その鳥がたちまち私の情感にしみこんで来たからだ。⑤「かささぎ」という名を知った今と、知らなかった前とでは、

その鳥は私にはもはや同じ鳥ではなくなった。⑥いろいろなものの名には、こんな働きをする言葉が少くないが、「かささぎ」という言葉の、日本の古歌の流れは、私のなかに浮きあらわれて、なつかしい。注1瀬音も聞えそうだった。

その鳥たちは庭で見なれているので、もう私には親しい。

「なんとという鳥だろう。」と、これまでにたびたび、私は家の者に言った。「尾長鳥のようだが、尾長鳥にしては大き過ぎるね。なんとという鳥だろう。」

名はわからないながら、その鳥たちが毎日のように庭へ来てくれることを、私は望んでいた。来年も、その先きも年々来てくれるようにねがっている。その鳥は十羽近いひと群れで来る。庭木から芝生におりて、餌をあさって歩く。餌をまいてやりたいが、なにか餌なのかわからない。

⑦私の家は鎌倉の大仏の近くにあつて、うしろに小山を背負い、その山の奥は山つづきなので、鳥たちが来てくれる。季節には小鳥の群れも渡つて来るが、私の裏山に長年住みついているらしい鳥もある。雀は別として、とび、うぐいす、木の葉注2などである。それらは鳴声なまこゑでわかりやすいし、それらの鳴声を私は好きだ。その季節が来て、うぐいすの声を聞き、木の葉はすくはの声を聞くと、

「⑧。」と私はうれしくなる。この家に住んで二十年だから、鳥たちも二十年の親しみである。私は二十年前の鳥が生きつづけているように思っていた。鳥の寿命を考えてみなかった。ある時、自分の⑨そのうかつさに、私は突然刺された。

「うぐいすは何年ぐらい生きるものなんだろう。とびは何年ぐらい生きるものなんだろう。」と私は家の者に言った。「毎年、同じうぐいす、同じとびのように思っているが、じつは、二十年前からは何代目かのうぐいす、何代目かのとびなのかもしれないね。」

春のはじめのうぐいすは、幼い子のかたことのような鳴声で、日々稽古けいこを重ねるにつれて、うぐいすの歌になるのを、私は毎年聞いて来たが、あれは、去年のうぐいすが歌を忘れて、稽古し直していたのだったか、または今年生れたうぐいすが、稽古をはじめたのだったか。

二十年のあいだには、私の裏山で、鳥たちが生れては死に、生れては死にして、その何代もの子が庭木に来て鳴いたり、夜になって鳴いたり、屋根の上を舞って鳴いたりしていたのだった。それを私は同じ鳥が二十年生きているように思っていたのは、どういふことだろう。

しかし、友だちに名を教えられて、庭で見なれた鳥が、たちまち私の情感にしみこんで来た、その「かささぎ」という言葉も、考えてみると、幾代とも知れぬむかしの人々の古歌の心である。

かささぎは声が悪く、細身の姿の動きはやや落ちつきがない。かささぎの古歌、「かささぎの橋」とは結びつかぬ感じたが、それを結びつけないでは、私はもう庭へ来るこの鳥たちを見ることは出来ぬだろうか。

私の庭に来ている鳥たちは、自分たちが遠いむかしから「かささぎ」と名づけられて、歌によまれていることなど知るはずもなく、じつに生き生きとしたものだが――。

この鳥たちを「かささぎ」だと言った友だちは、九州の育ちだった。

(川端康成「かささぎ」『掌の小説』〔新潮文庫〕)

注1 瀬音……浅瀬を流れる川の音。

注2 木の葉すく……フクロウの一種。

問1 ①と③とに共通して入れるのに最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア もしも イ しかし ウ すなわち エ 例えば

問2 線部②「かささぎの渡せる橋」とあり、これは「小倉百人一首」にも収録されている次の和歌を指し示していると考えられますが、この歌に詠まれている季節はいつか、答えなさい。

かささぎの 渡せる橋に おく霜の 白きを見れば 夜ぞ更けにける

ちゅうなごんやかもち
中納言家持

問3 線部④「立って行って友だちといっしょに見ようとはしなかった」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 「私」は、客が来たら庭にかささぎが来ている様子を見せようとするかもしれないが、友だちにはそのつもりがないから。
イ 友だちにとっては庭で初めて見る鳥だが、「私」にとっては長年見続けている鳥なのでわざわざ見る必要がなかったから。
ウ すで見なれている鳥なのでそれを見るよりも、「かささぎ」という言葉から連想される事柄に、思いをほせていたから。
エ 立ち上がって見るまでもなく見なれた親しい鳥なので、それより古歌を思い浮かべ、なつかしきを感じていたから。

問4 線部⑤「『かささぎ』という名を知った今と、知らなかった前とは、その鳥は私にはもはや同じ鳥ではなくなった」とありますが、それはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 長年見なれていた名前も知らない鳥にそれまでも親しみを感じてはいたが、その名前がかささぎであるということを知ったことよって、それを歌い込んでいる日本の古歌などへも新たに連想が広がるようになったということ。

イ 長年見なれていて毎年のように庭にやってくるものの、特に気にも留めなかった鳥の名前がかささぎであることを知ったことよって、それが「私」の情感にしみこんできて急に家の者にも伝えなくなったということ。

ウ それまでは名前がわからないながらも毎年庭に来つづけてほしいと願っていたが、その鳥の名前がかささぎであるということを知ったことで、それが七夕の夜にやってくる鳥だということを理解するようになったということ。

エ それまでは名前がわからないものの、鳴き声が好きだと感じていた鳥の名前がかささぎであるということを知ったことで、それが古歌に歌われる有名な鳥であると気づき、その鳴き声が違って聞こえるようになったということ。

問5

——線部⑥「いろいろなもの名には、こんな働きをする言葉が少くない」とありますが、私たちは、それまで知らなかったある物事の名前や歴史、機能など、新たな別の側面を知ることよって、その物事に対する見方や考え方が変わることがあります。そのような経験や体験について、これまであなたの身近にあったことを例に挙げて、百字以内で述べなさい。

問6

——線部⑦「私の家は鎌倉の大仏の近くにあつて、うしろに小山を背負い、その山の奥は山つづきなので、鳥たちが来てくれる」とありますが、ここで使われている表現技法を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 反復法 イ 擬人法 ウ 倒置法 エ 体言止め

問7

⑧ に入れるのに最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア もう、そんな季節になったのか
イ さて、今年は何の餌をあげよう
ウ おや、わかりやすい鳴き声だよ
エ ああ、今年もいてくれたんだな

問8 ——線部⑨「そのうかつさ」とありますが、それはどのようなことですか。三十字以上四十字以内で答えなさい。

問9 川端康成の作品を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 『銀河鉄道の夜』

イ 『吾輩は猫である』

ウ 『雪国』

エ 『こんぎつね』

三

次の各問いに答えなさい。

問1 次の①～⑤の文の——線部のカタカナを適切な漢字に改めなさい。

- ① 日本にザイリユウする外国人が増えた。
- ② 核施設をササツする。
- ③ ジュドウ喫煙を防止しよう。
- ④ 地震のヨソクは難しい。
- ⑤ 高齢化社会への対応はキュウムだ。

問2 次のことわざ・慣用句の□に入れるのに最も適切な漢字一字を、それぞれ答えなさい。

- ① 死人に□なし
- ② 生き馬の□を抜く
- ③ □を棒にして歩く
- ④ □に火をともし
- ⑤ □をかかえて笑う

以下余白

